

銀鉱山が育んだ中世都市 ドイツ・ゴスラー

2022年5月14日 朝日カルチャーセンター立川 岡部由紀子

ブロッケン山(標高 1141m)のあるハルツ山地の北西に位置する都市(海拔 255m)。

ハルツ山地の湿原を水源とするオーカー川の支流ゴーゼ川(アップツフト川)が、旧市街を流れている。旧市街は約 1 平方キロメートルの広さで、ロマネスク様式の歴史的建造物や、中世に起源を持つ石造建築、1500 軒ほどの木組みの家々が軒を連ねている。

旧市街の南にあるランメルスベルク(海拔 635m)では、10 世紀にオットー大帝により銀と銅の採掘が始められ、1988 年に閉鉱するまで千年以上にわたって巨大な富を生み出すこととなる。ゴスラーは銀の取引の中心地となり、世俗の権力者、教会、商人、手工業者、鉱山労働者たちが、鉱山の恵みを利用しながら町の歴史を刻んでいった。



10 世紀 オットー大帝の時代にランメルスベルクで本格的な採鉱が始まる

紀元前千年ごろから、ハルツ山地で銅が産出。銅はイタリア語で rame、Rammelsberg の語源か？

「972 年に、オットー1 世(大帝)の従者ラムの馬が、銀鉱石を蹄で掘りあてた」という伝説もある。

「968 年に、オットー1 世がランメルスベルク鉱山を開いた」という記述 (ザクセン年代記)

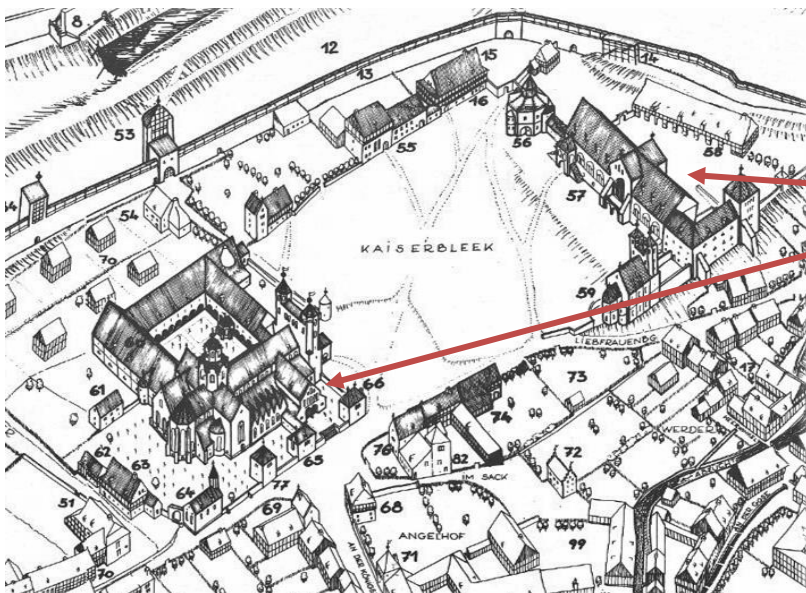
11 世紀 鉱山の麓の町に皇帝の居城、Kaiserpfalz(カイザープファルツ)が作られる

11 世紀初頭 ザクセン朝のハインリヒ 2 世が、ゴスラーに「王の居城」の建設を始める。

11 世紀半ば ザーリア朝のハインリヒ 3 世が、町の南西部に「皇帝の居城」を完成。当時のドイツで最大の世俗建築重要なプファルツ(居城)として、しばしば帝国議会が開催された。

1051 年 居城の建物の東に、修道院附属教会 Dom が完成。当時、ライン川の東では最大のロマネスク建築

1056 年 ローマ法王ヴィクトール 2 世の滞在中、ハインリヒ 3 世が急逝し、心臓は宮廷礼拝堂に安置されている。



<1500 年ごろの居城周辺の復元図>

北北東から俯瞰

市壁に隣接して、居城関係の建物が並ぶ

皇帝の居城 カイザープファルツ (地図 A)

修道院附属教会 (地図 B)

左奥の市門から上(南)に向かう道は、鉱夫たちの村を經由して鉱山へと通じる。

Dom から下(北)へ向かう道は、マルクト広場へと通じる。

画: Hans Günther Griep

12世紀 交易、貨幣の鑄造で栄えた町は都市として発展する

塔と門をもった市壁の建設が始まり、現在の旧市街の範囲まで市域が広がる。人口は、5千人を数えた。

ゴーゼ川の上流から水を引き、町に水路を作った。(採掘や精錬による川の水の汚染を避けて、生活用水を確保)

マルクト広場(市が開かれる広場)には、ドイツで現存する最古の青銅製の噴水。(現在は、金色の鷲をいだく)

ランメルスベルク鉱山は銀、銅、鉛の主要な供給地となり、ゴスラーで作られる銀貨はヨーロッパ中で流通した。

富は争奪戦を招き、ザクセン大公のヴェルフェン家がゴスラーの代官職をめぐって、ゴスラーを襲撃・略奪する。

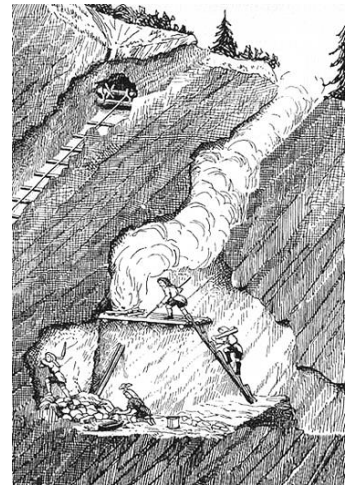
(シュタウフェン朝のフリードリヒ1世(皇帝バルバロッサ)と、ヴェルフェン家のハインリヒ獅子公の抗争に巻き込まれた)

鉱石の採掘、精錬に従事した鉱山労働者は、教会や施療施設を備えた集落(バルクドルフ)を、市壁の外(南方)に作った。鉱夫や精錬工は各地の鉱山を渡り歩き、湧き水や崩落で採掘が難しくなると、新しい鉱坑を求めて別の土地に移った。互助組織を持ち、独特の連帯感で結ばれていた。

採鉱や精錬には木材を多量に必要としたので、鉱坑の周囲の森林は伐採されている様子が下の地図からもわかる。



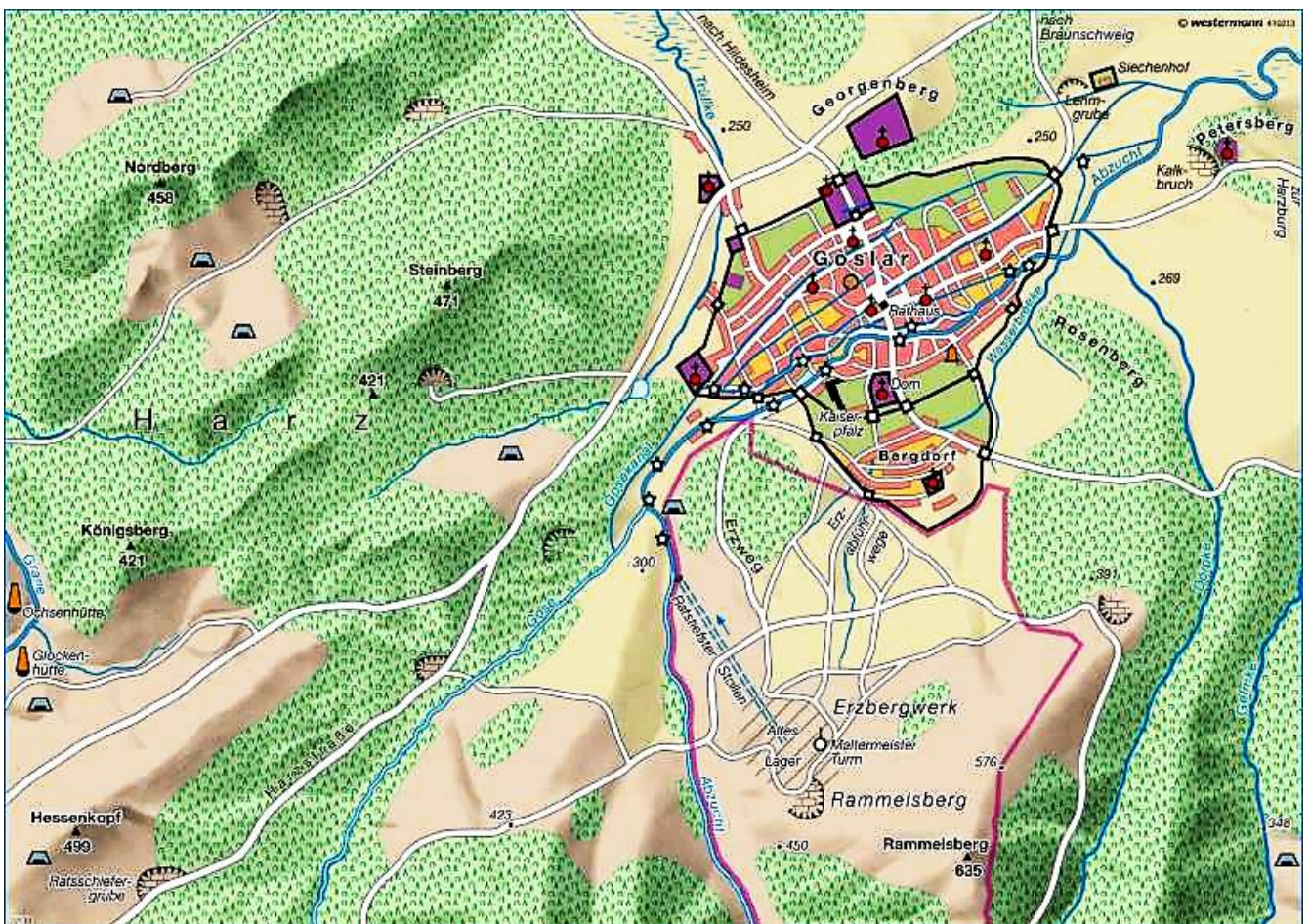
Georg Agricola 16c
銀の精錬作業



Pirchl 1918
火を焚き岩に亀裂を入れる

1300年ごろの鉱山と麓の町ゴスラー

Diercke Drei - Universalatlas



13世紀 14世紀

鉱山の排水問題から銀の生産が減ったが、銅の取引とビール醸造、交易が経済を支える。

市民が力を蓄え、特に高価な布を取引する交易商が市政における発言力を強める。

ハンザ同盟に加入、帝国自由都市として自治権を得る。鉱山と森林から税金を得る権利も獲得

スレートの採掘と取引が始まる。→ 屋根や側壁をスレートでおおった木組みの家

木製の水道管が施設され水道が各家にひかれた。(ローマ以後、ヨーロッパで最初の水道施設)

15世紀

崩落事故や排水問題、ペストによる労働力不足で百年ほど途絶えた採鉱が1460年に再開、活況を呈する。

市庁舎やギルドハウスの建設 → 高級織物交易商人のギルドハウス Kaiserworth

現存する立派な木組みの家の多くは、16世紀にかけて建造された。→ パン職人のギルドハウス

市の参事会は、市壁内に鉱山労働者が居住することを認めた。→ 旧市街の西部に並ぶ木組みの低層住居群

16世紀以降

宗教改革で市は、改革派となる。

1552年、鉱山地区と森林の権利がブラウンシュバイク公の手に渡り、衰退が始まる。→ 中世の街並みが残る

1777年にゴスラーを訪れたゲーテは「かつて与えられた特権と共に朽ちた時代遅れの町」と書き記している。

1822年、老朽化した修道院附属教会が、北側の入り口部分を残して解体される。

1875年、老朽化したカイザープファルツは、ドイツ皇帝ヴィルヘルム1世によって全面的に改修される。

1988年、ランメルスベルク鉱山が閉山。

<マルクト広場周辺>

市が立っていた広場は旧市街のほぼ中央にあり、中心の噴水から放射線状に石畳の模様が広がっている。

噴水は二つの水盤からなり、下の水盤は12世紀の青銅製の鋳物 金色の冠をつけた鷲はゴスラーの象徴

マルクト教会 St. Cosmas und Damian (地図H)

1151年の記録があるが、11世紀に建てられたバジリカが原型のロマネスク様式の建築。

1250年ごろ制作された後期ロマネスクのステンドグラス 聖コスマスと聖ダミアンの生涯を描いた絵

市庁舎 (地図I)

15世紀半ばに建てられた後期ゴシック様式の新市庁舎

16世紀初頭に市参事会会議場として作られた部屋は、板絵の内装が見事。

高級織物交易商人のギルドハウス Kaiserworth

富を象徴する後期ゴシックの石造建築(1494年) 二階の壁を飾るバロックの皇帝像 一階のアーケード

織物交易商は、遠隔地の高級品の卸商で、鉱山を所有したり、金融業を営んだり、最も裕福な市民層

仕掛時計・カリヨン

スレートで覆われた木組みの建物に、ランメルスベルク鉱山の 1000 周年を記念して、1968 年に採鉱の歴史を人形で表す仕掛時計がつけられた。鐘の奏でる音楽と共に、日に 4 回上演される。

パン職人のギルドハウス (地図 J)

最盛期の繁栄と、市民の力の隆盛を見て取れる建築
石造りの一階の上に、1557 年木組みの部分が増築された。

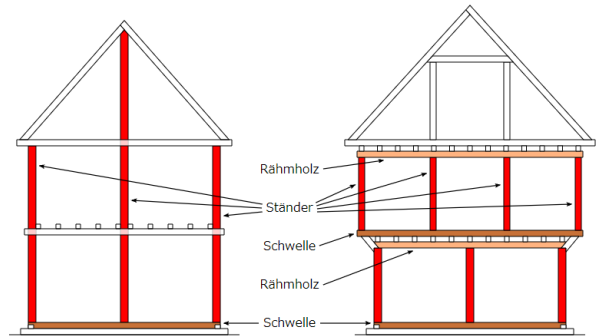
石壁にパン職人のギルドの紋章

梁の部分や出窓の下には、彩色された彫刻の装飾

建築主の名前、建築年などが刻まれている

窓の下には、半円形のロゼッタ模様の彫刻

典型的な木組みの家の構造



通し柱を使わず、階ごとに短い管柱を使う構法



織物交易商のギルドハウス



パン職人の紋章



パン職人のギルドハウス 二階の出窓

<富裕層の住宅と慈善施設>

ジーメンスハウス Siemenshaus

1693 年に建てられた広い敷地に建つ大きな木組みの家。もともとは農家だが、17 世紀には商業やビール醸造業も営み、市長を輩出する有力市民であった。当時の扉には、「祈り、働け」という建て主の言葉が刻まれている。

大聖十字施療院 Großes Heiliges Kreuz (地図 F)

1254 年に建てられた市の救貧院、現存するドイツで最も古い慈善施設

礼拝所、高齢者や障害者、孤児の住まい、施療院、貧民や巡礼へ食事や宿を提供



大農であったジーメンスの家



ジーメンスハウス入り口の扉



大聖十字施療院

< 鉱夫地区の住まい >

15 世紀に市壁の中へ住むことが認められた鉱山労働者たちは、西部に低層の木組みの小さな家をびっしりと建てた。丸石の石畳の路地に並ぶ簡素な家々は、柱の組み方や梁に施した木彫りの装飾で個性を主張している。

フランケンベルガー教会 Frankener Kirche St. Peter und Paul (地図 D)

1108 年に建てられたロマネスク教会に、バロックの内装

危険と隣り合わせの仕事に出かける前と無事に帰った時に、鉱山労働者が祈りをささげた。

クラウス礼拝堂 Klauskapelle (地図 C)

1537 年、市参事会が鉱山労働者に与え、施療院と救貧院を併設していた、



小さな家が軒を並べる路地 家の裏手に畑や家畜小屋

採掘されたスレートで壁をおおった木組みの家も多い

< 町の名前 Goslar の語源 >

ゴーゼ川 Gose

激しい流れを、水路を作ることによって管理 → たくさんの水車を水路に設置してエネルギーを得た。

ゴーゼ川の水を各家に給水する水道施設を作り、鉱山の汚水から生活用水を守ることができた。

混合林の中にある平坦地 lar

豊富な森林資源を活用できた。鉱山の坑道用木材 精錬に必要な熱源

木組みの家(一般の家はドイツウヒを使用、ジーマンスハウスはオーク材を使っている)

参考文献

『世界の建築術 人はいかに建築してきたか』若山滋ほか 彰国社 1986

『図説西洋建築物語』ビル・ライズベロ/下村純一ほか訳 グラフ社 1982

ゴスラー紹介ビデオ

ドイツ公共放送制作番組 Schätze der Welt Folge 103 „Der Rammelsberg und Goslar“

修道院教会の復元ビデオ Rekonstruktion des Doms zu Goslar